

性別変更1万人超え 20年末

出生時の性別と自認する

性が異なるトランスジェンダーで、性同一性障害特例法に基づき戸籍上の性別を変更した人が2020年末

までに1万人を超えたことが10日、司法統計や最高裁への取材で分かった。特例法が施行された04年から19年までは増加傾向にあったが、昨年は減少。新型コロナ

ウイルスの感染拡大を受けて性別変更の要件となる性別適合手術を延期したなどの理由があると思われる。

特例法に基づく性別変更には、生殖機能をなくす手術や未成年の子どもがいななどの要件を満たす必要がある。性同一性障害学会理事長の中塚幹也・岡山大

大学院教授は「持病や高齢のため手術を断念したり、子どもがいて変更できなかったりする人もいる。トランスジェンダー当事者はこの数倍はいる」と推測する。

司法統計や最高裁集計の20年速報値などによると、04年に性別変更を認められたのは97人。以降年々増え続け、10年には500人を突破した。19年は過去最多の948人だったが、20年は676人と減少した。コロナ禍収束後には再び増加に転じそうだ。20年末までの合計は1万301人。